

今回は、県教育長・県民文化局長訪問の報告です。

## ◇ 地域研究部の生徒が全国大会上位入賞の報告をしました！

日時： 2020年10月30日(金) 14:30~15:10

場所： 岐阜県庁 教育委員会室

来訪者： 関高校・加納高校生徒、両校学校長及び部顧問

岐阜高文連事務局(会長・副会長・事務局長)

立会： 教育長、副教育長、教育次長、義務教育総括監、県民文化局長、文化伝承課長

## ◇ 当日の様子

今夏開催された「令和2年度全国高等学校郷土研究発表大会」において、上位入賞を果たした関高校及び加納高校地域研究部の代表生徒が、教育長と県民文化局長に受賞の報告をしました。加納高校は、歴史・考古学部門で最優秀賞を受賞した「近世岐阜町の材木商 丹羽與三右衛門家に関する考察」について、関高校は公共・政策部門で最優秀賞を受賞した「関鍛冶を世界へ！プロジェクト 探究活動の成果を生かしたまちづくりの構想」、同じくポスターセッション部門で最優秀賞を受賞した「明智光秀と関市のつながりを追って」について、研究の概要を報告しました。

参列された先生方からは、ねぎらいの言葉とともに、研究テーマの設定の仕方、研究を進める中で一番驚いたことや感動したこと、郷土の歴史を学ぶ意義などについて、質問が寄せられました。両校の生徒はやや緊張しながらも、ひとつひとつ丁寧に答えていました。

全国高等学校郷土研究発表大会とは、2008年度に岐阜県高文連地域研究部会と静岡県高文連郷土研究専門部とで立ち上げて始まった大会です。郷土研究部門の高文連全国組織はまだ成立していませんが、部会の成立している県で呼び掛けあって毎年夏に開催しています。今年度は岐阜市において7県16校が参加しました。当初はプレゼン大会を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、レポートもしくはポスターの審査のみで実施する運びとなり、今回の審査結果となりました。

現在、岐阜県では、公立高校における「ふるさと教育」が一斉に展開されています。本校や加納高校で実施されているFRH事業もその一環です。

地域のまちづくりは、地域の歴史や自然について学ぶことから始まります。郷土の歴史や文化、自然を研究する生徒たちは、ふるさと教育やまちづくりの最前線に立っていることとなります。2024年度には、岐阜県で全国高等学校総合文化祭が開催される予定です。「文科系部活動に所属するみなさんは、学校全体で取り組むふるさと教育や探究活動の先導役を果たしている」。うれしい激励の言葉を最後にいただきました。

